

教育委員会だより

令和8年5月19日号 多治見市教育委員会 教育総務課

〈めざす子ども像〉
お互いを尊重し、
主体的に学び、
挑戦する多治見の子

学びの本質 ～七ツ塚遺跡発掘調査現場説明会～

4月25日(土)、新庁舎の建設予定地にて、七ツ塚遺跡発掘調査現場説明会がありました。およそ50名の参加があり、予想を超えた数に文化財保護センター職員の顔にも笑みがこぼれていました。

「七ツ塚遺跡」とは、多治見駅北側に広がる縄文・弥生時代から古代・中世を主体とする集落遺跡とのこと。今回、最も古い発見は古墳時代の溝です。古墳時代と聞くと、多くの方が「大和地方」を思い出すのではないのでしょうか。しかし、多治見でもその時代から人々の生活があり、暮らしていた痕跡が残っていると思うと、歴史のロマンを感じます。この調査は、駅北庁舎や虎渓用水広場の建設の際にも行われていて、今回が「第15次」と歴史のある発掘調査です。文化財保護に関わる方々の探求への強い思いが、この遺跡の本当の姿を明らかにしていきます。

見学中に一人の中学生ぐらいの男子生徒が目にとまりました。その生徒はうなずきながら説明を聞いていました。彼は、説明が終わった後もその場に残り、質問を繰り返していました。考古学に興味がある子なのかなと思います。周りには友達らしき仲間や家族の姿はありません。自分の興味あることに対して、自分の意思で現場まで来て、学芸員を質問攻めにするその姿は、学びの本質そのものではないのでしょうか。

AIに「学びの本質」を聞いてみると「主体的に問いを立て、知る喜びを感じながら自己を変革し、人生を豊かで自由にするという人間の普遍的な営み」と回答してくれました。まさに彼の姿です。そんな彼を支えられる教育、そして、彼のような学びにより、自分の人生を豊かにしようとする子どもたちを育てる多治見市の教育でありたいと再認識しました。



タブレット端末更新 ～デジタルシティズンシップ～

令和3年度から5年間、子どもたちが使用してきたiPadが4月に更新され、新しいiPadを満面の笑みで利用する子どもたちの姿が各学校で見られています。

その陰には、4名のICT教育推進員の「少しでも早く子どもたちが使えるように…」との思いがありました。そんな思いを受け、各校の教職員も力を合わせて、年度当初の多忙な時期に作業を進めてくれました。また、更新には6億2000万円もの費用がかかっています。その費用に見合うようなスピード感あふれる使用開始ができました。「いただいたものを十分に活用しきる」という動きができたことや多治見市教職員のフットワークの良さは、教育委員会としても誇らしく感じます。

第8次多治見市総合計画には「ICTを活用した教育を推進します」との重点があります。今年度からは「生成AI」の利活用の研究を本格的に始めます。大学生が生成AIを使ってレポートを提出するような問題点が挙げられています。本市で育った子どもたちが「主体的に、安全に、よりよくデジタル端末や生成AIなどのテクノロジーを使いこなす」責任ある一個人へと成長してほしいと願います。そのための「デジタルシティズンシップ教育」を今後も推進していきます。



今日も笑顔で ～給食費無償化・負担軽減～

市長公約の一つ「給食費の無償化」が4月より実現しました。中学校は多治見市独自の施策で完全無償化、小学校は国の施策を利用しての負担軽減となっています。物価高騰はもちろん給食に使う食材にも影響を与えています。かかる費用は計り知れず、食材の調達にも頭を悩ませています。それでも、給食の質を下げることなく「安全・安心で魅力あるおいしい学級給食の安定した提供」を合言葉に食育推進課職員や調理員が日々努力をしています。加えて、教職員定数の関係で、今年度より栄養教諭が一人減り、5名体制で献立作りや食物アレルギー対応を行っています。食育センターに見学に行くと、誰もが本当に忙しく立ち働いています。それも、すべては、魅力あるおいしい給食を提供するためです。給食に関わっている方たちに改めて感謝したいと思いますし、子どもたちにも感謝できる心情を育みたいと願います。今日も、教室には、子どもたちの「笑顔」があふれ、元気のよい「いただきます」の声が聞こえてきます。